

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2021年(令和3年)12月1日 会報 第120号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

(AAC21) ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】#9E2,street432,Sangkat Boeng Tumpum,
Khan Meanchey,Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】 [カンボジア支援](#) 検索

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) 検索



地方の学校で授業が再開

日本は減少傾向のコロナ感染、カンボジアはアップダウンの繰り返しだが、感染者が少ない田舎の学校では少人数に限定し、授業が再開された。都市部の学校ではいまだに休校が続くも、地方の学校から光明が差し込んできた。

新学期が来年1月に予測される中、年度末の12月まで少ない日数だが、子どもたちは元気で通学し勉強に励んでいる。



教室は20人以下に限定



消毒済ませて教室に

小学校の校舎建設進展、完成間近!

「味の素グループ労働組合」が資金協力

「味の素グループ労働組合」(本部=東京都中央区京橋)の資金協力による小学校の校舎建設が順調に進み、11月中旬に完成するメドが立った。レンガ造りの平屋建てで教室の数は4つ、机や椅子、黒板などの備品付き。

校舎を建てているのは「チョロチョロウポテイサル小学校」(クラチェ県スヌオル郡、生徒数=460人)、首都プノンペンから車で5時間かかる内陸にある。

生徒数が多いため午前・午後の2部制授業を行い、教室不足のため一部の生徒は近所のお寺を借りて勉強している。

校舎の完成後、12月には贈呈式を予定しているが、寄贈団体が出席できないためZoomによるオンラインで、生徒たちとの交流を図ることにしている。



もうじき完成します

お年玉基金にご協力お願いいたします



今年もお年玉基金にご協力をお願い申し上げます。長引くコロナ禍と会員様の高齢化により、本会の活動を支えてくれる会員の数が減少しております。それでも、本会は現地事務所を持ち、有能な現地スタッフが活動を継続しておりますので、他のNPO団体と比較すれば善戦している方かもしれません。

この時期、隔月に会報を発行している国際NPO団体は少ないと思われます。しかしこれも、こんな時期にも拘らずご支援くださる会員の皆様のお陰様と、心より感謝申し上げます。

今年のお年玉基金は活動資金の一助として、皆様のあたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。

※同封の振込票にてご送金をお願いいたします。(目標額=50万円)

トンネルの出口が見えてきました

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸恒次

今年はどうとう、カンボジア訪問が叶いませんでした。無理すれば行けないこともないのですが、カンボジアで2週間の強制隔離(ホテル滞在)、帰国後2週間の自主隔離と、約1カ月間不自由な生活を強いられることとなります。加えて、カンボジアでの隔離に要する諸費用は全額自己負担(約20万円)です。会社が負担してくれるビジネスマンならともかく、年金生活組にはハードルが高すぎます。ANA直行便の欠航が続いていることも、行きづらくなった理由の一つです。

能になつても、今後は年1〜2回の訪問にとどめるつもりです。その理由として、年齢的、体力的なこともありますが、コロナでオンラインが発達したおかげで、わざわざ現地に行かなくても活動できる環境が整ったためです。科学の進歩が国境を超えました。さて皆さんの1年はいかがだったでしょうか?身近な方が亡くなったたり、ご自身が病気で苦しんだり、自粛自粛で家に籠ることの多かった1年であったかもしれまん。私も山あり谷ありの1年でしたが、皆様に支えられ有意義な日々を過ごすことができました。



いつも元気な子どもたち

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば76年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。

- ・内訳
子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)
年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)
- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらも可。
- ・所定の郵便振替用紙をばいお振込みください。

【支援する期間】 少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合がありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

里親さんありがとうございます



教育支援をお願いします!

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを、会報紙面で紹介いたします。支援してください。方は、子どもの名前を添えて、事務局までご一報ください。
 (先に里親が確定する場合がありますので、ご承知ください)
 また、既に里親をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見えるマン・ツィ・マンの教育支援です。

☎03・3991・2854
 FAX 03・3557・1213

パンニャ君のカンボジアレポート

カンボジア・プノンペン都郊外に、イオンモール3号店が建設中です。1号店はプノンペンの中心部に、2号店はやや離れたプノンペン郊外に、建設中の3号店も郊外の住宅地になります。2023年に完成、オープン予定です。

カンボジアでは、コロナ感染対策に中国製ワクチンの接種が求められ、特に6歳～13歳の低年齢層も接種が義務化されました。ワクチンを2回接種すると通学許可がでるそうです。



ワクチン接種を受ける子どもたち

建設中の3号店



ケイン・セイハイちゃん
(女の子)



ソリヤ小学校
4年生(9歳)

- 家族構成＝母親死亡、父親のみ。10人兄弟の末っ子。現在父親、数人の兄弟と暮らす。
- 好きなこと＝絵本を読むこと。
- 学校まで徒歩で15分。

スン・ソクラックサーちゃん
(女の子)



ソリヤ小学校
1年生(6歳)

- 家族構成＝両親が離婚、母親のみ。兄、姉、弟がいる。現在母親、兄弟と5人で暮らす。
- 好きなこと＝ゴム跳び。
- 学校まで徒歩で15分。

キム・チャントーン君
(男の子)



エミ小学校
1年生(6歳)

- 家族構成＝両親離婚、母親のみ。母親は縫製工場の寮にいて、時々自宅に戻る。妹が1人いる。現在祖母、妹と3人で暮らす。
- 好きなこと＝本を読むこと。
- 学校まで徒歩で20分。

ヌーン・ピセイちゃん
(女の子)



エミ小学校
3年生(9歳)

- 家族構成＝両親離婚し、母親のみ。兄2人、弟1人いる。現在母親、弟と3人で暮らす。
- 好きなこと＝ゴム跳び。
- 学校まで徒歩で15分。

ナイン・ダー君
(男の子)



ソリヤ小学校
1年生(6歳)

- 家族構成＝両親が死亡。兄が3人、姉と妹がいる。現在祖母、姉妹2人と暮らす。
- 好きなこと＝サッカーをすること。
- 学校まで徒歩で15分。

投稿 自然災害が少ないカンボジア、うらやましい国です



中村善信(プノンペン在住、喫茶店経営)

9月5日～7日はカンボジアのお盆(プチュンベン)で、3連休でした。

休みが取れる方はその前後の2日～10日まで9日間、プノンペン都に仕事に来ておられる方、また田舎に実家がある方々は帰郷されます。この連休を利用して友人2人を含む3人で、カンボジアの最北東部のラタナキリ州にクルマで出かけました。その2泊3日の記録です。

プノンペンからラタナキリ州の州都バンルンまでほぼ500キロ、クルマで走行するだけで8時間30分程度かかります。往路は、プノンペンから地方に出かけるクルマやバイクでしばらくは渋滞が続きます。復路は、プノンペンに近づくにつれてまた渋滞です。日本と変わりませんね。

バンルンに到着したのは、暗くなってからでした。バンルンでは日本の方で、NGO関連の農業の技術指導に来られている方と合流し、4人でまずはホテルを確保してから、夕食を取りに行きました。

翌日は、バンルンの街の観光スポットを目指しました。最初に向かった先は、昔火山の噴火で出来た湖「Banlung, Krong Ban Lung」、カルデラ湖なのでほぼ円形の湖です。

現在のカンボジアに火山はありません。よって地震もありません。発達した台風も来ることはありませんので、自然災害のリスクが非常に少ない国です。うらやましい国ですね。

他にもバンルンの街の観光地をあちこち見て回りました。詳細は私のブログを見てください。(ブログ、なかやんのプノンペン滞在記を毎日公開しています。ご覧になってください)

投稿 雑味エグ味も味の内

青木貴之(プノンペン在住、会社員)



食文化で日本人よりカンボジアの方が、味覚が発達していると思ったことです。

お魚のハラワタや血は、日本なら出来るだけ綺麗に取り除きますが、カンボジアではタブーです。日本人としては「捨てる部分」なのですが、カンボジア人としては「お楽しみの部分」というところが、調理の仕方の違いもあるかもしれません。

そして衝撃の事実なのですが、日本では鍋の灰汁(アク)は捨てるものという認識がありますが、カンボジアでは上座の人に入れてあげるといふ場合があります。日本人はお客様として灰汁を全部貰えることもありますが、ビックリせずありがたく頂くのが粋というものです。

私がカンボジアで食べた一番口に合わなかったものは、熟していないバナナ(皮付き)です。若い女の子たちがオヤツに普通な顔して食べていて、私も分けて貰ったのですが、まるでジャガイモを食べているような感じで、ビックリして顎が外れるかと思いました。

カンボジアの小学校に4つの井戸が完成



岩浪千恵様寄贈の井戸



平和・かそけしF秋田・川崎様寄贈の井戸



PROJECT BY TEAM IDOKKY様寄贈の井戸

この程、カンボジアの村と小学校に、大型手押しポンプ式井戸4基が完成した。

完成したのは、岩浪千恵様(東京都青梅市在住・会員)寄贈の「プレイスロール村」(コンボンスプー県ボーセット郡、村民数=1,740人)、平和・かそけしF秋田・川崎様(秋田県及び川崎市に活動)寄贈の「ソムボー村」(トゥボンクモム県メーモット郡、村民数=424人)、PROJECT BY TEAM IDOKKY様(全国から協力者募る)寄贈の「ソムボー小学校」(トゥボンクモム県メーモット郡、生徒数=526人)、国際ソロプチミスト安城様(愛知県安城市、会員)寄贈の「ロボンジョス小学校」(トゥボンクモム県メーモット郡、生徒数=108人)の4つの村と小学校。

8月28日と9月1日、本会の現地スタッフが4か所を訪問、井戸の完成を見届けたうえで、少人数で簡易な贈呈式を行い、完成を祝った。

井戸の深さは平均して約40メートル、ヒ素などの水質検査を実施しているため、生徒や村民には安心・安全な井戸水を提供している。

ウオッチカンボジア

中、日本の支援で修復 国道5号線



国道5号線

プノンペンからバタンボンを経由してタイ国境に延びる国道5号線、このほど日本の援助で修復が始まった。舗装の傷みも拡張され、



自動車レース場

待たれる外国人観光客

コロナ前は外国人観光客でにぎわっていたプノンペン市内の「セントラルマーケット」だが、今はご覧の通り。ワクチン接種証明書持参で入国規制緩和の情報もチラホラ。あと少しの辛抱か。

「自動車レース場」が最近オープンしたそう。日本人が経営するレース場、所定の車やバイクで回れるらしい。動物園も併設。興味ある方、一度訪ねてみては?

自動車レース場がオープン

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在305人の子どもたちを教育支援している。

カンボジアでは、新型コロナウイルスの感染爆発により3月以降、全国すべての学校が休校となったが、生徒たちへのワクチン接種が進んだため、まず地方の小・中・高校で授業が再開された。感染が収まらない都市部の学校は依然として、休校かオンラインで授業がなされている。



授業が再開した里子たち

大半が地方に住んでいる里子たちは、久しぶりに授業を受け喜んでいました。感染防止のため、当分は小人数での授業になる模様。

Zoomオンライン里子訪問も回数こそ少ないが、希望する里親さんによる画面を通じての里子交流が進んでいる。Zoomオンライン里子訪問を希望される方は、事務局にお問い合わせを。03-3991-2854

里子への教育支援金を隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフが、教育里子が通学する小学校(27校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費(1人の里子につき3万円)の中から、42%に当たる12,600円を6回に分け、米ドルに換金して届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

9月下旬に8月と9月分を、現地スタッフが各学校を回り届けた。

カンボジアの地方の学校は9月から授業が再開され、生徒たちの大きな声が教室中に響いていた。

支援金を届けました



里子へのプレゼントは 随時受け付けています

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、カンボジアへの渡航が難しくなりました。しかし、海外送金は問題なく可能ですので、当面は皆様から送って頂いたプレゼント代金を現地の本会銀行口座に送り、現地スタッフがプレゼントをお届け致します。里子からのお礼状(写真付き)もメールで送ってまいります。
● 事務局に届いた里子プレゼント(品物)につきましては、カンボジアへの渡航が可能になりましたら、空港から持参させていただきます。暫くお時間を頂きますので、この時期品物を避け、なるべく現金をお送りください。(手紙はメールで、現地に送ります)

Table with 2 columns: Item Name and Price. Items include bicycles, rice, school supplies, books, and stationery.

※上記の代金は、現地での物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。
※里親様が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

投稿 M君の思い出(1) 今 紀子(東京都在住・会員)

ラジオを聞いていたら、「G神父」という懐かしいお名前を耳にした。カンボジアがポルポト政権で国難が続いていた頃、カンボジアから日本に逃れてきた少年たちがG氏の庇護を受けた。ラジオの中でG氏はM君の話をしていました。M君はポルポトの少年兵として、ベトナム人を殺めたのだった。G氏は、M君を実名で話していた。M君は、自分の罪を償うために実名で話すことを了承したのでしょうか。何という過酷な人生でしょう。

そのM君と、重荷はサッサと捨ててしまう私の人生が、ある一刻交わうことになったのです。二人の二人三脚日記を繙いて参りましょう。数十年前、世田谷区立新星中学校がありました。統廃合の為、現在は校名が変わっています。その新星夜間学級(通称:夜間中学校)で、私は国語教師をしていました。

1学年の担任だった私のクラスに、小柄でやせっぽちのカンボジア少年がやって来た。里親の神父と共にやって来たのだった。少年はいつもはにかんだ微笑を浮かべていた。彼は簡単な日常会話を話すことができ、「ひらがな」は書く事ができた。クラスは五人前後だったろうか。戦争の為学校で学ぶ事ができなかった御年輩の方、病気の為、中学校を卒業できなかった女性。みんながそれぞれの重荷を抱えながら、必死に生きていた。

秋になり学校では、「文化祭」の準備が始まった。各学年一クラスなので、学年ごとに演目を決めることになった。さて、一年生はどんな演目にしましょうか。ようやくクラスにも仲間意識が生まれて来た。文化祭を機にもっと絆を深めたい。

そうだ! M君にカンボジアの踊りを教えてもらって、みんなで踊ろう! (続く)

投稿 便利すぎる今の日本に警告! 菊地 武範(千葉県在住、里親会員)

若い時は世界各国へ行きましたが、カンボジア訪問は初めてであり、どんな所かワクワク。プノンペン空港に到着、子供たちを支援している方々とマイクロバスに乗り、市街地のホテルへ向かう。街に近づくにつれ...あれ、どこかで見たような光景、建物看板は中国の市街地そっくり、というのは、コロナの数年前は仕事(どんな仕事かは機会あれば後日...)の関係で中国へ年4回程度行っていた。吉林省敦化市の街中をそのままコピーしたような光景に驚き、ここもだいたい中国の進出が...。話が少しずれました。

ホテルに到着、後日メンバーの方の里子訪問に同行、住宅入口の「水がめ」を見たとき、私の記憶が小学校の2年生の時へとジャンプ。あの頃は常磐炭鉱の長屋に住んでおり、長屋が数軒集まったところ水道の蛇口が2ケついた大きな流し台があり、午後4時頃からでしたかね?お母さんたちが夕食の支度の為集まり、時代劇のような野菜を洗ったりお米を研いだりと、わいわいがやがや井戸端会議をしていました。蛇口をひねりブリキ製のバケツで家にあった「水がめ」に何度も運んだ事や、かまどに火をつけ小さな種火に竹筒で息を吹き大きくして、母が羽釜でおこめを炊いたり、味噌汁や料理をしていたことを鮮明に思い出しました。

当時は不便とも思わず生活し、数年後台所にガス管および水道管の設備が整い、便利さに驚き...

その後の日本の急激な発展、便利すぎる今の日本に警告!カンボジアの今後の発展に注視。



夢ホームの子どもたち

子どもたちの笑顔

写真提供:遠藤 啓様



好評につき、3回連続で「子どもたちの笑顔」を掲載します。コロナも終息に向かっており、カンボジアの子どもたちにも明るく元気で暮らしましょう。



投稿 未来を生きる子どもたちの為に私達がすべきこと(2)

~人口問題への対策~ 佐々木英介(東京都在住、里親会員)

人類がこの地球上に認められる先史時代以降、長い年月を経て18世紀の半ば過ぎまでの人口推移は、ほぼ直線状の緩やかな上昇を辿っていましたが、イギリスに産業革命が起こって以降それが緩やかな上昇曲線へと変化し、1930年頃に20億人を超えてからは、直線が放物線の上昇形状へと変化し、それからわずか30年後には30億人を超えるまでに増加しています。



そして、それから更に60年ほど過ぎた今年、とうとう80億人近くまで達してしまいました。

現在先進国では、わが国のように少子化に歯止めがかからない国や、中国やインドのように人口数が飛び抜けて多くはあっても、その出産数を見ると次第に鈍化傾向の国もあります。が、世界全体では後進国や発展途上国を中心にねずみ算的に増加し続けているのが現状で、それらの国々のいくつかでは極度の貧困、食糧不足、高死亡率、高出生率が相互に関連して、悪循環をもたらしています。

「世界人口白書2013」には、途上国の若い女性の19%が18歳になる前に妊娠しており、そのうちの4分の1近くが15歳未満の少女だと記されています。

更に、「学校に長く通っている少女は妊娠する可能性が低い。教育を受けることで、少女は仕事と生計手段を得る準備ができ、自尊感情を高め、家庭や地域での地位を向上させ、自分の人生を左右する決定に対し、より発言権を得ようになる。更に、教育を受けると児童婚の可能性は低くなり、出産年齢が遅くなり、結果としてより健康的な出産につながる」とも。

途上国では、未だに少女への教育が不必要だという考え方を持っている大人が多くいることにより、その機会が妨げられています。そして、そのことが人口増加に拍車をかける一因とも考えられます。

つまり、後進国や発展途上国に於ける教育支援活動は、単にその地域で教育を受けた子どもたちにその機会を与えるということだけでなく、私達の子孫が適度な人口の中で、この地球上で安心して住み続けられる環境にする為の一つの手段でもあるのです。(次号へ続く)

本会の会員状況をお知らせいたします (2021年10月末日現在)

●教育里親会員	219名
●個人会員	76名
●団体会員	10団体
●寄付協力者(単発)	63名
合計	368名

書き損じハガキ・未使用切手

・商品券等をお送りくださいませか

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビール券やデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいませよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。



事務局便り

発行日の関係で少し早くになりましたが、今年も「お年玉募金」をお願いする時期になりました。どうぞよろしくお申し込みをお願いします。

Zoomによるオンライン里子訪問(原則として毎週金曜日午前中)とオンライン情報交換会(毎月第1土曜日午前中)が定着しました。加えて、パソコンで見ることが出来る里子からのビデオレターを検討中です。

カンボジアでは学校に通う生徒へのワクチン接種が進み、11月から全国の学校で授業が再開されたようです。コロナ感染が落ち着いてきたことが理由、安心です。

カンボジアへの入国規制が少し緩和されました。入国時に2度のワクチン接種証明書を持参すれば、ホテルでの隔離が7日間に短縮されましたが、通常になるまでもう少しかかりそうです。

コロナ、オリパラ、総選挙と、今年は多忙な1年でした。来年こそ最良の年になりますよう、お祈り申し上げます。

活動に参加しませんか

正会員として

- 教育里親会員(年額3万円)
子どもたちへ直接払う年額
1万2千6百円(42%)
会の運営に回す年額
1万7千4百円(58%)
- 個人会員(年額5千円)
- 団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

* * * * *

会費・寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】
21世紀のカンボジアを支援する会
019支店 当座0160916
【ゆうちょ銀行】
【りそな銀行】
練馬支店 普通4098235

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

春さんのカンボジアレポート

～カンボジアの最低賃金～

カンボジアの2022年1月からの最低賃金は194ドル/月となりました。現在は192ドルですので、1.0%の上昇です。

2012年61ドルから2013年は80ドルと31.1%増、以後は25.0%、28.0%、9.4%、9.3%、11.1%、7.1%と急上昇し、2020年には4.4%、2021年には1.1%と落ち着いて来ました。

最低賃金は、政府、雇用者、労働組合の3者の代表28名が参加する労働諮問委員会で討議され、その結果からフン・セン首相の毎度の鶴の一声で、若干額が増額されます。

2019年までの鶴の一声は5%が徐々に小さくなり、今回はコロナ禍もあって2\$です。この最低賃金額は主に大手の縫製等の工場従業員に適用されるもので、商店等の従業員は適用されません。

今回の委員会では、雇用者側はコロナ禍として188ドルに引き下げを主張し、組合側は物価上昇で生活費が上昇していると214ドルを主張。政府はコロナ禍による経済ショックと混乱を考慮して、中間の192ドルを提案しました。

内需振興と国民生活向上のために最低賃金の引き上げは必要ですが、急激な上昇は外貨融資を抑え、成長をさまたげるというジレンマに陥ります。

里親会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)



縫製工場働く女性たち

カンボジアお盆(プチュンバン)

カンボジアでは10月5日～7日がお盆の祝日になっていて、その前後1週間程度、お休みする会社が多いようだ。コロナ感染も落ち着き、お盆行事も無事に行われた。

カンボジアのお盆は日本と異なる。食料品や寄付を持参、正装してお寺参りし、お経をあげてもらふ。敬虔な仏教信者が多いのだろう。



カンボジアお盆

ZOOMオンライン交流会を毎月開催

コロナ感染者が減少し、飲食店への時短営業が解除されるなど、通常の生活に戻つつあるが、海外渡航は依然として難しい現状。

そこで本会では、カンボジア在住の日本人や現地スタッフの協力のもと、現地情報をZoomで紹介するオンライン交流会を毎月第一土曜日の午前中に開催中。10月は2日に、11月は6日に開催、15人前後の皆さんが参加している。

参加を希望する方は事務局までご連絡を。スマホやパソコンをお持ちの方なら、どなたでも参加可能。



オンライン情報交換会



定員オーバー

カンボジアミニミニNEWS

東南アジア路線を順次再開

カンボジア政府は、新型コロナウイルスの影響で8月から受け入れを停止していたマレーシア、インドネシア、フィリピンからの国際路線について、10月23日から受け入れを再開した。肝心の日本路線は未だ閉じたまま。

全国の学校が11月1日から再開

カンボジア教育・青少年・スポーツ省は、11月1日から国内すべての公立・私立学校の再開を許可すると発表した。但し対面授業の場合、生徒数は1クラス20人を超えてはならず、人と人との距離の確保や、その他の感染防止策を遵守することが求められる。

リウム海軍基地に新たな建造物、中国関与と米大使館が非難

カンボジア南部のリウム海軍基地で新たな建造物が確認され、アメリカ大使館がカンボジア政府に対して抗議する声明を出した。リウム海軍基地はタイ湾の要地に位置しており、南海に容易にアクセスできる場所。

入国制限緩和、ワクチン接種で隔離3日に

カンボジア保健省は10月17日に入国制限の緩和を発表、必要回数のワクチン接種を完了した投資家、技術者、外交官などの入国後の隔離期間を3日間に短縮した。そのほかのカンボジア人と外国人の入国については隔離期間を7日間とし、ワクチン接種を受けていない者については14日間の隔離が必要。

教育里親会員 入会申込書

年 月 日

氏名	ふりがな	生年月日	年 月 日
住所	〒	(TEL)	
備考	1. サポートして下さる子どもの人数 [] 人 2. サポートして下さる子どもの性別 ① 男の子 ② 女の子 ③ どちらでも 3. その他 [具体的に]		

*入会して下さる方は所定の事項をご記入のうえ、本会事務局までお送りください。